

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間: 2005年10月上旬から11月中旬までの旬別
 対象海域: 道東海域、三陸海域、常磐海域
 対象漁業: さんま棒受網漁業
 対象魚群: 南下回遊群

1) 道東海域

- (1) 来遊量: 10月上旬は高位水準でピークに達する。10月中旬から徐々に減少し、11月上旬には低位水準となる。
- (2) 漁場: 10月上旬は、落石～釧路沖が主漁場で、襟裳岬周辺～襟裳岬南沖にも漁場ができる。10月下旬から落石沖の漁場は散発的となり、11月上旬以降は襟裳岬周辺～襟裳岬南沖に漁場が残るが、徐々に断続的になる。

2) 三陸海域

- (1) 来遊量: 10月上旬～中旬は、低位水準ながらも増加を続ける。10月下旬以降は、中位水準を持続する。
- (2) 漁場: 10月中旬まで、八戸～宮古沖が主漁場となる。10月下旬以降は、漁場が三陸南部にまで広がる。

3) 常磐海域

- (1) 来遊量: 10月上旬までは来遊量が少なく、漁場形成は期待できない。10月中旬～下旬には低位水準ながら来遊はあるが、本格的に来遊するのは11月上旬以降となり、11月中旬には中位水準となる。
- (2) 漁場: 10月中～下旬に、常磐北部において断続的ながら漁場が形成される可能性がある。来遊量が増加する11月上旬以降は、常磐北部～鹿島灘が主漁場となる。

2. 予測の概要

海 域		10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬
道東海域	来遊量					
	動向	高位水準	中位減少	中位減少	低位減少	断続的
	漁 場	落石～釧路沖・襟裳岬周辺～襟裳岬南沖	落石～釧路沖・襟裳岬周辺～襟裳岬南沖	落石～釧路沖・襟裳岬周辺～襟裳岬南沖	襟裳岬周辺～襟裳岬南沖	襟裳岬周辺～襟裳岬南沖
三陸海域	来遊量					
	動向	低位増加	低位増加	中位水準	中位水準	中位水準
	漁 場	八戸～宮古沖	八戸～宮古沖	北部～南部	北部～南部	北部～南部
常磐海域	来遊量					
	動向	断続的	低位水準	低位水準	低位増加	中位水準
	漁 場	北部	北部	北部	常磐北部～鹿島灘	常磐北部～鹿島灘

3. 漁況の経過概要

(9月中旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、9月上旬をやや下回り、前年並の低水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期後半にかけて来遊量が徐々に増加した。

(2) 漁場

落石南 20～南南東 40 海里付近の表面水温 13～17℃が主漁場であった。14 日夜は時化のため操業した船は無かった他は、連日小型船主体の漁場となった。期前半は小型船が数隻～20 隻程度操業し、1 隻当たりの漁獲量は 8～10 トン程度漁獲。16 日夜以降は小型船が 20～30 隻程度操業し、満船となる船が多くなった。19 日夜は小型船が 30～40 隻と大型船数隻が操業し、小型船は満船、大型船は 30 トン程度漁獲した。20 日夜は小型船が 50～60 隻操業し、満船となる船が多かった。

(3) 魚体

30～31cm の大型魚が主体。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

茨城県水産試験場いばらき丸が、20 日夜に黒埼東 40 海里付近の 18℃台で 1.2 トン漁獲したことから、低水準ながらも来遊があった。漁船による本格的な操業は無かった。